

看護技術の指導時に用いているオノマトペ

— 生活援助技術の指導に焦点をあてて —

永田 佳子¹⁾, 林 暁子¹⁾, 大津 廣子²⁾

1) 鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科

2) 鈴鹿医療科学大学

研究報告

看護技術の指導時に用いているオノマトペ

— 生活援助技術の指導に焦点をあてて —

永田 佳子¹⁾, 林 暁子¹⁾, 大津 廣子²⁾

1) 鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科

2) 鈴鹿医療科学大学

キーワード： 看護技術指導, 生活援助技術, オノマトペ

要 旨

看護教員が生活援助技術の指導に用いているオノマトペの実態を明らかにする目的で看護教員 332 名に自記式質問紙を用いて調査した。生活援助技術の要素行動（30 項目）を抽出し調査した結果、その動作について具体的なイメージを想起させるオノマトペは、258 語で総数 5590 であった。多く用いていたオノマトペは、「そっ」であった。「そっ」は、ベッド柵を外す動作に用い、「びったり」は、皮膚に密着させる動作などに用いていた。生活援助技術の指導に用いているオノマトペは、日常生活で体験することの少ない動作の様態やものごとの状態など視覚情報の補完として用いていることが示唆された。

1. 緒言

人と人との関係のなかで行われる看護行為には、対象者の安全・安楽とともに満足が求められ¹⁾ており、そのような看護実践能力を身につけるため技術教育に対する取り組みが強化されている。看護技術には、「対人関係の技術」「看護過程を展開する技術」「生活援助技術」「診療に伴う援助技術」が含まれ²⁾、看護技術教育は、学内演習という授業形態によって展開されることが多く、効果的な教授方法の探求が行われている。本大学看護学部の基礎看護学分野においても「生活援助技術」「診療援助技術」は、学生が看護技術を理解し、技術を習得することを目的とした演習を有効な学習方法として取り入れ、学内演習を実施してきた。技術を習得するためには、型や形式を学び、その技術を構成している要素を理解することが必要であり、頭の中で理解していることを「身体化」できるまで熟達しなければならない³⁾。模倣して技術を体験させる授業だけでは、頭の中で理解した行動を対象者に表現するのは難しく、要素行動を自己の技術として定着させるために反復練習が必要である。このことから、学習者の要素行動の理解を促す演習は、身体化を促進させるために重要であると考えられる。大津⁴⁾は、教員によるデモンストレーションは、黙って動作を見せるのみでは効果はなく、看護教員の身体の使い方、無駄のない動き、その動きを学習者がイメージできるような指導言語の用い方が重要な要素となると述べている。さらに、山崎⁵⁾は、指導言語は、教員と学習者間に行われる相互作用であると述べていることから、教員が演習する際には、学生が動作のイメージを容易に描くことができる言語表現を用いることが技術指導に効果的であることがわかる。

運動・スポーツ領域では、スポーツにおける複雑な動作内容や微妙なニュアンスも運動学習者へ柔軟に表現・伝達できる手段として技術指導の言語にオノマトペ（擬態語・擬音語）が活用されている⁶⁾。オノマトペは、音や動作・状況などをひと纏まりのものとして表現できる⁷⁾ことから、看護技術要素行動の詳細な動作をイメージしやすい言語として期待できる。看護学分野におけるオノマトペの先行研究⁸⁾では、看護技術の説明にオノマトペを用いた指導は、動作のイメージを容易にすることがで

き、オノマトペを用いた指導言語を活用する指導方法が学生の技術習得に効果的であることが示唆されている。他に、小児医療場面で幼児に援助行為の説明に用いているオノマトペの特徴を明らかにした研究報告⁹⁾はあるが、看護技術の演習や指導をより効果的にするために、看護教員が学習者の特性を考慮し用いているオノマトペに焦点化した研究は数少ない。

そこで、看護技術指導の場面で用いているオノマトペには、どのような特徴があるのか、その特性を明らかにすることで効果的な指導言語の一例が提示でき、看護技術教育の向上に寄与すると考え調査したので報告する。

2. 研究目的

看護教員が生活援助技術の指導に用いているオノマトペの実態を明らかにし、生活援助技術の指導に有効なオノマトペについて検討する。

3. 用語の定義

オノマトペ：擬音語または、擬声語・擬態語の総称
 生活援助技術：体位交換、清拭、足浴、洗髪、寝衣交換、排泄の援助、足浴、シーツ交換、マッサージなどの日常生活に必要な看護技術
 要素行動：援助の一連の流れの中で物事を成り立たせている行動

4. 研究方法

1) 研究対象

全国の看護系大学及び看護専門学校より、無作為に抽出した717校において看護技術を指導・教育している1434名

2) 調査期間

令和2年11月～令和3年1月

3) データ収集方法

調査は、研究者間で作成した無記名自記式質問紙を用いて実施し、調査用紙の配布・回収は、個人情報保護契約を取り交わしたアンケート調査会社（バルグ）へ委託した。

質問紙の属性は、看護教員の年齢、性別、教育的背景、看護教員経験年数の項目を設定した。1・2年生に看護技術の講義や演習の場面で、技術指導や説明する際に用いているオノマトペについて回答を得るために、生活援助技術の要素行動を調査項目とした。要素行動は、演示する際に学生に対して視覚的情報を補完する必要性がある動作を複数の看護技術のテキストを参考に研究者間で精査し、30項目を抽出した。抽出した要素行動について、学生がイメージしにくいであろう動作に下線をつけ、その動作を学生に指導する場合に、どのようなオノマトペを用いているかについて調査した。さらに、作成した質問紙のプレテストを行い、内容の妥当性を確保した。

4) 分析方法

基本属性の単純集計と生活援助技術の要素行動30項目別に、講義や演習の場面で用いているオノマトペとその割合について集計した。オノマトペの抽出は、SPSS Text Analytics for Surveys Ver.4を用い、抽出したオノマトペは、オノマトペ辞典¹⁰⁾で類語を整理した。

5) 倫理的配慮

対象施設の責任者に研究の概要を記載した調査依頼文書を送付し、調査対象者に質問用紙と個人用返信封筒の配布を依頼した。調査対象者には、研究主旨、方法、調査への参加は自由意思であること、匿名性を保証すること、学会等での結果の公表について記載し、返信をもって調査に同意を得られたものとした。本研究は、鈴鹿医療科学大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：443）を得て実施した。

5. 結果

1) 対象者の概要

質問紙は、1434部配布し332部を回収した（回収率23.2%）。有効回答332部を分析対象とした。属性の結果は、表1に示した。所属機関は、専門学校214人（64.5%）、看護系大学103人（31.0%）であった。最も多かった年代は、40代131人（39.5%）、次いで50代128人（38.6%）であった。教員経験年数は、1～5年未満73人（22.0%）、5～10年未満75人（22.6%）、10～15年未満70人（21.1%）であった。看護技術の指導時にオノマトペを用いたことがある教員は、262人（79.0%）、用いたことがない21人（6.3%）であった。

表1 対象者の属性

		n=332	
	項目	人数	(%)
年代	20代	1	(0.3)
	30代	41	(12.3)
	40代	131	(39.5)
	50代	128	(38.6)
	60代	19	(5.7)
	無回答	12	(3.6)
	性別	男性	11
女性		314	(94.6)
無回答		7	(2.1)
所属機関	専門学校	214	(64.5)
	看護系大学	103	(31.0)
	短期大学	8	(2.4)
	無回答	7	(2.1)
教員経験年数	1年未満	4	(1.2)
	1～5年未満	73	(22.0)
	5～10年未満	75	(22.6)
	10～15年未満	70	(21.1)
	15～20年未満	47	(14.2)
	20年以上	53	(15.9)
オノマトペを用いた指導経験	無回答	10	(3.0)
	ある	262	(79.0)
	ない	21	(6.3)
	わからない	31	(9.3)
	無回答	18	(5.4)

2) 生活援助技術の指導場面において教員が用いているオノマトペ

生活援助技術の要素行動 30 項目全体で、教員が用いているオノマトペは、258 種類で総述べ数 5590 語であった。最も多く用いているオノマトペは、「そっ（そっを含む）」で 877 語（16%）であり【1. ベッド柵を外し、掛け物と枕を外す】などで用いられていた。「ぴったり（ぴたっを含む）」は、729 語（13%）で【9. 両手の手のひら全体を施術部位に密着させる】などに用い、「しっかり」は、487 語（9%）で【23. 洗浄剤を用いて清拭した後は、洗浄剤が残らないようにふき取る】などに用いられていた。

生活援助技術の要素行動を項目別でみると、何らかのオノマトペを用いて要素行動を指導していた教員が最も多い項目は、【8. 看護師はシーツを持ち、対角線方向に引っ張り、しわを伸ばす】264 人（79.5%）であった。次いで、【9. 両手の手のひら全体を施術部位に密着させる】255 人（76.8%）であった。他に、シーツの取り扱いに関する項目は、半数以上の教員がオノマトペを用いていた。一方、オノマトペを用いて指導する教員が少なかった項目は、【22. 清拭する時に、洗浄剤の泡を使用して洗う】131 人（39.5%）で「ごしごし」「しっかり」「そっ」など多様な表現のオノマトペを用いていた。

【17. ガーグルベースンを患者の皮膚に密着させ、口角から水などを排出させる】、【9. 両手の手のひら全体を施術部位に密着させる】では、8 割以上の教員が「ぴったり」を用いていた。【8. 看護師はシーツを持ち、対角線方向に引っ張り、しわを伸ばす】で 74.6%の教員が「ぴーん」を用いていた。生活援助技術の要素行動にオノマトペを用いている教員数と用いているオノマトペ上位 3 語を表 2 に示した。

6. 考 察

生活援助技術の要素行動 30 項目全体で、教員が多く用いているオノマトペは、「そっ」、「ぴったり」、「しっかり」、「すっ」であった。「そっ」は、注意深く動いたり扱

たりするさまを表し、「すっ」は、すばやく静かにものごとを行うさまを表している。オノマトペの語尾の小さい「っ」は、瞬間的に行われる動作や動きを表現し、「そっ」「すっ」は、ベッド柵など患者の周囲の物品に触れる動作や身体に直接触れる動作に用いられ、相手を気遣い苦痛を与えないよう素早く行う安楽性を表現していると考えられる。また、「ぴったり」は、ものごとが隙間なく完全にくっつくさまを表し、患者の皮膚に密着させる動作で用いられていた。「しっかり」は、安定しているさまを表し、ふき取る動作や肘関節を支える動作で用いられていた。「ぴったり」、「しっかり」は、実行効果を最大にする体制を示すオノマトペ¹¹⁾として分類されることから、患者の身体の安定性を保つことで安楽に配慮し、動作が途中で途絶えないよう安全に配慮しつつ、効率よく動作する様子を表現していると考えられる。生活援助技術は、患者の身体に触れることが多く、身体に対する安楽性、安定性が求められることから「そっ」「ぴったり」などを多く用いて患者を気遣う思いを表現していたと考えられる。

看護技術は、対象の安全・安楽・自立を目指した目的、意識的な直接行為で実践者の看護観と技術の習得レベルを反映する¹²⁾といわれ、指導言語にも教授する教員の看護観が反映していると考えられる。指導時に用いているオノマトペは、教員が要素行動の際、相手を尊重した丁寧な関わりや細部まで配慮している思いが反映され、その行動を詳細に再現できるオノマトペが教員によって選択されていたといえる。視覚を通して認識できる動作を説明するだけでは、安全・安楽のような目に見えない概念を捉えるのは難しく、学生がその概念を目に見えるかたちでイメージできるように、どのように実施すればよいか要素行動の補完として身体に対する安定性、安楽性、安全性などをオノマトペで伝えていたと考えられる。

また、シーツの取り扱いに関する項目に多くの教員が何らかのオノマトペを用いて指導していた。技術指導の研究報告では、シーツの取り扱い方や始末の仕方について、学生の生活体験の乏しさから手順を追ってその動きの理解を促すために多くの比喻表現を活用していた¹³⁾との報告がある。本研究でも日常生活で自らシーツを交換するなどの体験が乏しい学生に、一枚布のシーツを取り

表2 オノマトペを用いて指導している教員の人数と用いているオノマトペ（生活援助技術）

n = 332

番号	項目	教員数	(%)	用いているオノマトペ (%)		
1	ベッド柵を外し、掛け物と枕を外す。	193	(63.2)	そっ (63.2)	すっ (6.3)	がたがた (6.3)
2	患者の上肢を下から支えて腕を組ませる。	169	(50.9)	そっ (51.2)	しっかり (17.2)	ぐっ (9.5)
3	看護師は患者の膝関節に右手を当て、 <u>向こう側に倒す</u> 。	156	(47.0)	そっ (40.2)	ゆっくり (17.9)	ぱたん (8.9)
4	看護師は患者の膝関節に右手を当て、 <u>手前に倒す</u> 。	155	(46.7)	そっ (35.5)	ゆっくり (20.0)	ぱたん (17.0)
5	移動した時に中央に頭部が来るように <u>枕をずらす</u> 。	151	(45.5)	すっ (37.7)	そっ (26.5)	さっ (16.6)
6	看護師は患者を回転させ、下肢を <u>ベッドから降ろす</u> 。	173	(52.1)	そっ (45.7)	ゆっくり (15.6)	すっ (11.6)
7	看護師の両腕を患者の腰部の後ろに回し、手を組み <u>脇を締め</u> る。	210	(63.3)	ぎゅっ (54.3)	きゅっ (10.5)	ぐっ (12.4)
8	看護師はシーツを持ち、対角線方向に引っ張り、 <u>しわを伸ばす</u> 。	264	(79.5)	▲ びーん (74.6)	▲ びしっ (7.2)	ぐっ (3.4)
9	両手の手のひら全体を施術部位に <u>密着させる</u> 。	255	(76.8)	▲ びったり (88.2)	▲ しっかり (2.7)	そっ (2.3)
10	患者に振動を与えずに <u>シーツを引き出す</u> 。	216	(65.1)	▲ そっ (44.0)	すっ (20.8)	さっ (12.0)
11	汚染したシーツ類を皮膚の落屑や毛髪などが <u>飛散しないように丸める</u> 。	221	(66.6)	▲ くるくる (39.2)	そっ (11.3)	ばらばら (9.0)
12	足元の方へシーツを引っ張り、 <u>しわを伸ばす</u> 。	243	(73.2)	▲ びーん (71.2)	▲ びしっ (7.8)	しっかり (6.1)
13	足浴の場合、バースンに足趾から足関節まで <u>湯につける</u> 。	188	(56.6)	そっ (35.6)	ゆっくり (16.4)	しっかり (11.1)
14	背部のマッサージは、腰部から肩甲間部に向けて長い <u>ストロークで擦る</u> 。	142	(42.8)	▼ すっ (31.0)	ぐっ (12.6)	くるくる (9.8)
15	患者の手背に密着させた手で、やや圧を加えて <u>円を描くように揉む</u> 。	167	(50.3)	くるくる (49.0)	ぐるぐる (14.9)	もみもみ (4.7)
16	手にある合谷のツボは、第1・第2中手骨間に <u>拇指の指腹を押す</u> 。	169	(50.9)	ぐっ (46.2)	ぎゅっ (28.9)	しっかり (3.5)
17	ガーグルバースンを患者の <u>皮膚に密着させ</u> 、口角から水などを排出させる。	219	(66.0)	びったり (92.7)	▲ しっかり (3.7)	ぎゅっ (0.3)
18	患者の手関節から肘関節を <u>下から支えて</u> 寝衣の袖を脱がす。	163	(49.1)	そっ (40.5)	しっかり (25.8)	ぐっ (12.3)
19	患者の体の下に汚染寝衣を <u>入れ込む</u> 。	189	(56.9)	ぐっ (28.0)	ぎゅっ (18.5)	しっかり (7.9)
20	清拭用タオルを示指に巻き付け、タオルの端が <u>はみ出さないように握りこむ</u> 。	176	(53.0)	びらびら (32.4)	ひらひら (9.6)	ぎゅっ (7.9)
21	患者の目を拭くときは、目頭から目じりにかけて <u>拭く</u> 。	175	(52.7)	そっ (40.5)	すっ (26.2)	さっ (8.5)
22	清拭するとき、洗浄剤の泡を使用して <u>洗う</u> 。	131	(39.5)	▼ ごしごし (15.3)	しっかり (13.7)	そっ (10.6)
23	洗浄剤を用いて清拭した後は、洗浄剤が残らないように、 <u>ふき取る</u> 。	152	(45.8)	しっかり (45.4)	さっ (10.5)	ぎゅっ (7.8)
24	清拭するとき、タオルを皮膚に <u>密着させて拭く</u> 。	172	(51.8)	びったり (66.3)	しっかり (13.9)	ぐっ (2.9)
25	清拭で洗浄剤ふき取った後は、バスタオルで覆い、 <u>押し拭きをする</u> 。	147	(44.3)	ぼんぼん (15.6)	ぐっ (14.2)	ぎゅっ (11.5)
26	洗髪時に、ケープを巻くときは水の流れ込みを防止するために、 <u>密着して巻く</u> 。	188	(56.6)	びったり (70.2)	▲ しっかり (10.6)	ぎゅっ (4.2)
27	洗髪は、頭部を支え反対の手の指の腹で頭皮をマッサージするように <u>洗浄する</u> 。	146	(44.0)	ごしごし (44.0)	しっかり (8.2)	しゃかしゃか (8.2)
28	洗髪ですぐ場合は、湯を <u>適量をかけて洗い流す</u> 。	152	(45.8)	さっ (17.7)	しっかり (15.8)	ざっ (11.8)
29	臥床患者に便器を <u>挿入する</u> 。	141	(42.5)	▼ すっ (38.0)	ざっ (19.1)	ぐっ (11.3)
30	陰部洗浄では、陰部を開き、上から下に向けて <u>微温湯をかける</u> 。	153	(46.1)	そっ (24.2)	さっ (13.7)	ちよろちよろ (11.1)

▲上位5項目を示す

▼下位3項目を示す

扱う動作がイメージできるようにオノマトペを用いて伝えていたことが推測される。一方で、オノマトペを用いて指導する割合が最も少なかった項目は、【22. 清拭する時に、洗剤の泡を使用して洗う】であった。洗う動作は、学生が日常的に体験する動作であることから、容易にイメージできると考えオノマトペを用いて指導する教員が少なかったと考えられる。イメージとは、個々の経験と記憶を拠所として再生的に描くことであり、イメージできた動作は、再現性を可能とし技術習得へとつながる。このことから、学生の生活体験が乏しくなり、技術を視聴しただけで、模倣し再現することが困難な要素行動を指導するときにオノマトペを用いていたと考える。

多くの教員が同じオノマトペを用いて指導していた項目は、【8. 看護師はシーツを持ち、対角線方向に引っ張り、しわを伸ばす】で、74.6%の教員がシーツのしわを伸ばす動作に「ぴーん」を用いて指導していた。「ぴーん」は、まっすぐ張り詰めているさまを表し、シーツのしわを伸ばす動作には、しわがないことに加え、まっすぐ張り詰めているさまが安楽な寝心地のよい病床を提供する目的を包含し表現している。シーツにしわがない状態を学生にイメージさせ指導する必要があると多くの教員が認識していたと考えられる。同様に、【17. ガーグルベースンを患者の皮膚に密着させ、口角から水などを排出させる】で92.7%、【9. 両手の手のひら全体を施術部位に密着させる】で88.2%の教員が「ぴったり」を用いていた。患者の皮膚に手や物を密着させる動作は、隙間なく完全にくっつくように手をあてること、その様態が患者の触覚や力加減に配慮し、安定性を保ち不快感を与えないことが重要な要素であり、安楽性が包含され「ぴったり」を用いて指導できると多くの教員が認識していたと考える。

以上のことから、生活援助技術の指導に用いているオノマトペは、身体動作の使い方や物事の様態を表し、効率的で患者に安楽性を与える動きをイメージさせるものであった。さらに、初学者である学生が技術の要素行動を鮮明にイメージできるよう視覚情報の補完言語としての特性があった。看護技術の教育には、教えなければならない手技の技の部分と伝えなければならない看護の基本

的要素としての安全・安楽の概念とが混在している。安楽性は、看護技術の提供を受ける対象者が楽であると感じる主観性に依拠している。どのような動作をすれば対象者の安楽に繋がるのか、相手を尊重した丁寧な関わりや配慮について動作を視聴しただけでは捉えることができない。技術を指導する教員は、多面的な概念を目に見えるように簡潔に表現できるオノマトペで技術の要素を伝えていたと考える。したがって、オノマトペは、簡潔な表現でありながら看護ならではの安楽性の哲学を包含し、相手に伝えることができる言語として技術指導に活用できると考える。

7. 研究の限界と今後の課題

本論文は、生活援助技術で用いているオノマトペに焦点をあて、その実態を報告したものであるが回収率が低かったことから看護教員が用いているオノマトペの実態を十分に反映した結果が得られたとは言い難い。看護技術の教育は、対象者の反応を見ながら教授することが求められており、教員の指導言語と学生の認識が一致することが必要である。したがって、教員のイメージと学生のイメージが共有できるオノマトペについて検討し、調査することが今後の課題である。

8. 結 論

- 1) 生活援助技術の指導に用いているオノマトペは、「そっ」「ぴったり」が多く、対象者の身体に触れる動作に用いられていた。
- 2) 生活援助技術の指導に用いているオノマトペは、初学者である学生が技術の要素行動をイメージできるように、視覚情報の補完言語としての特性があった。
- 3) 生活援助技術の指導では、身体動作の使い方、物事の様態を表し、効率的で患者に安楽性を与える動きを鮮明にイメージできるオノマトペが用いられていた。

謝 辞

本研究にご協力いただきました関係施設の看護教員の皆様に感謝申し上げます。

なお、本研究は令和2年度科学研究費助成事業（基盤研究C、課題番号：20K10619 研究代表者大津廣子）による研究の一部である。

引用文献・参考文献

- 1) 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子, 看護教育における授業設計, 第4版, 医学書院, 東京, p20, 2009.
- 2) 深井代子編, 新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術I, メヂカルフレンド社, 東京, p2, 2017.
- 3) 新井英靖, 荒川眞知子, 池西静江, 石東佳子編, 考える看護学生を育てる授業づくり第1版第4刷, メヂカルフレンド社, 東京, p46-47, 2016.
- 4) 大津廣子, 佐藤美紀, 滝内隆子, 足立みゆき. 学内実習における教員の基礎看護技術の実践状況と指導方法, 愛知県立看護大学看護学部紀要, 2013; 19: 31-40.
- 5) 山崎朱音, 村田芳子, ダンス授業における指導言語と発言に至る思考の特徴について, スポーツ教育学研究 p2011; 30 (2): 11-25.
- 6) 藤野良孝, 井上康生, 吉川政夫, 仁科エミ, 山田恒夫, 運動学習のためのスポーツオノマトペデータベース, 日本教育工学会論文誌, 2005; 29: 5-8.
- 7) 小野正弘編, 擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典, 第6刷, 小学館, 東京, 2020.
- 8) 大津廣子, 中村美起, 林暁子, 三井弘子, 中井三智子, 寝衣交換技術の演習時の指導言語にオノマトペを用いた効果, 鈴鹿医療科学大学紀要, 2018; 25: 59-67.
- 9) 石館美弥子, 幼児へのプレパレーションに含まれるオノマトペの特徴, 横浜創英短期大学紀要, 2012; 8: 12-24.
- 10) 前掲書 7)

- 11) 前掲書 6)
- 12) 看護学を構成する重要な用語集, 日本看護科学学会, 看護学学術用語検討委員会 2, 東京, 1995.
- 13) 富山美佳子, 川島美佐子, 山本瑞恵, 基礎看護技術教育における比喩言語表現活用の可能性ーベッドメーカー技術習得過程にある学生のレポート分析を通してー足利短期大学研究紀要, 2013; 33 (1): 71-75.

— プロフィール —

永田 佳子 鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科・助教 修士（生活福祉文化）

〔経歴〕1992年国立名古屋病院看護助産学校助産科卒業, 1992年国立津病院, 1996年市立伊勢総合病院, 2015年京都ノートルダム女子大学人間科学研究科修士課程修了, 2018年より現職。〔専門〕基礎看護学, 看護管理, 看護技術教育。

林 暁子 鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科・助教 修士（看護学）

〔経歴〕2002年三重大学医学部看護学科卒業, 2002年三重大学医学部附属病院看護部看護師, 2014年三重大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻修了, 2014年より現職。〔専門〕基礎看護学, 看護教育, 看護技術教育。

大津廣子 鈴鹿医療科学大学・客員教授 博士（経済学）

〔経歴〕1992年名古屋市立大学大学院経済学研究科修士課程修了, 2001年岐阜大学医学部看護学科教授, 2007年名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得後退学, 2007年愛知県立看護大学看護学部教授, 2015年鈴鹿医療科学大学看護学部特任教授, 2021年より現職。〔専門〕基礎看護学, 看護教育, 看護技術教育。

Onomatopoeia Being Used in Giving Guidance in Nursing Skills

—With the Focus on Giving Guidance in Life Assistance Skills—

Yoshiko NAGATA¹⁾, Akiko HAYASHI¹⁾, Hiroko OTSU²⁾

1) Faculty of Nursing, Suzuka University of Medical Science

2) Suzuka University of Medical Science

Key words: guidance in nursing skills, life assistance skills, onomatopoeia

Abstract

The purpose of this study is to clarify the actual use of onomatopoeia when nursing teachers give guidance in life assistance skills. A questionnaire survey was conducted with 332 nursing teachers who consented to the survey. The subjects were asked to identify onomatopoeic words which remind them of concrete images for each of the elemental activities (30 items) related to life assistance skills. The result showed that the number of onomatopoeia used in teaching was 258 words with the total number of 5,590. Words used include “soh” (gently) or “pittari” (fitting perfectly), both suggesting safety and comfort. The survey indicates that the onomatopoeic words are used to complement the visual images of situations to show how actions, which are not experienced so often in daily life, are carried out or how things are in surroundings.